

## ペDESTリアンデッキの形態と広場性の研究

### A Study on Capabilities as a Plaza and a Form of the Pedestrian Deck

○河合恵実<sup>1</sup>, 山中新太郎<sup>2</sup>\*Megumi Kawai<sup>1</sup>, Shintaro Yamanaka<sup>1</sup>

#### 1. 研究の背景と目的

##### 1.1 背景

欧米では都市における広場空間はとても豊かなものである。日本において広場とはどこなのだろうか。私は JR 川口駅前のペDESTリアンデッキの上を思い浮かべる。なぜ川口駅前には広場性があるのか、ペDESTリアンデッキについて研究し、この空間に広場性を与えている要素を抽出したいと思う。



fig1 広場性のあるペDESTリアンデッキ

##### 1.2 目的

広場性のあるペDESTリアンデッキを研究することで、豊かな駅前空間を持つ駅を評価し、駅前の計画の参考にすることが出来るのではないかと。

##### 1.3 ペDESTリアンデッキの定義

自動車道路と立体的に分離された歩行者専用通路。歩者分離を目的に駅前の再開発と同時に建設されることが多い。

##### 1.4 研究対象の選定

JR 東日本が発表している各駅の一日平均乗降者数のうち、ペDESTリアンデッキを有する駅を選出。

##### 1.5 研究方法

対象の各駅に対して、ペDESTリアンデッキの図面を作成、観察調査をする。

#### 2. ペDESTリアンデッキの形態に関する分析

##### 2.1 調査目的

各ペDESTリアンデッキの形態を可視化し、形状の特性を読み解くことで広場性を形成する要素を抽出する。

##### 2.2 分析

3 駅を対象にデッキ上で周回できる輪状デッキとそこから伸びている手の数を数え上げる。

##### 【大宮駅】

- (1) 輪状デッキは 7 つある。
- (2) 伸びている手の数は 19 本である。

##### 【川口駅】

- (1) 輪状デッキは 2 つある。
- (2) 伸びている手の数は 10 本である。



fig2 川口駅の輪状デッキと手の数

##### 【武蔵浦和】

- (1) 輪状デッキは 1 つある。
- (2) 伸びている手の数は 7 本である。

##### 2.3 結果と考察

大規模なバスターミナルに対応するためにいくつもの輪状デッキが必要になり、接続している建物が多くなるほど分岐した手の数が必要になるのではないかと。また、建物の入り口を持つ輪状デッキ同士が重なっていると存在し、人通りは多くなることが予測

される。これを検証するために、ペDESTリアンデッキの詳細なしつらえや出入口の位置、観察調査が必要となるのではない。

### 3. ペDESTリアンデッキ上における滞留行動に関する調査

#### 3.1 調査目的

前章で分析したペDESTリアンデッキの形態を元に考察した形状との実際に行われている滞留行動の相関性を確認するためである。

#### 3.2 観察調査の対象と方法

平日の夕方 17:00~18:00 の一時間のうち 10 分間(計 7 回)で立ち止まっている人、座っている人など歩いている人以外の位置や詳細をプロットする。

#### 3.3 結果とまとめ

滞留者の各時間のプロットを重ね合わせ、滞留しやすい場所を可視化。



fig3 川口駅の滞留者

輪状デッキと建物が接続されており、さらに他の輪状デッキとの交点があるペDESTリアンデッキは最も人通りが多い。

ベンチの無い手の部分にはあまり滞留者はいない。

ペDESTリアンデッキ上において立ち止まり、通話をする人が多いのは欄干の前である。ロータリーや線路を見ながら通話をしている様子が観察できた。

多くの人がエスカレーターの利用しやすい建物へ流れている。

## 4. 形態と滞留の相関性

### 4.1 各駅の評価

#### 【大宮駅】

手の長さが最長であり、広場性が確認できるのは駅出入口前の面状デッキである。

ベンチは通路を取り囲むように配置されており、滞留者の滞在時間が長い。

結果としてペDESTリアンデッキ全体には広場性が無い。

#### 【川口駅】

西口側ペDESTリアンデッキは夜が近づくにつれ、暗くなり、公園に近いこともあり、静かな雰囲気である。

一方東口側ペDESTリアンデッキは多くの建物に接続されており、街灯も多く、広場の雰囲気がでている。

東口側ペDESTリアンデッキにはリング状デッキが2つあり、駅で入り口から真っ直ぐの方向にこの2つのリング状デッキの交点であるペDESTリアンデッキが伸びており、最も滞留者が多い。

#### 【武蔵浦和駅】

西口、東口、南口と各ペDESTリアンデッキによって規模や雰囲気が異なる。

リング状デッキは1つしかなく、滞留行動を誘発する要素は少ない。

## 4.2 考察

条例を見ると、市町村としてもペDESTリアンデッキを歩者分離のためだけでなく、賑わいや街としての一体感のために設けていることが分かった。

## 5. まとめと展望

### 5.1 まとめ

ペDESTリアンデッキにおいて広場性を形成していると言えるのは輪状デッキが複数あり、重なっているようなペDESTリアンデッキである。

しつらえは通路の中央に植栽があり、植栽と植栽の間に人が滞留しやすい。しかし、滞在時間は短時間である。

### 5.2 今後の課題と展望

関東圏の駅において輪状デッキを持つ駅を抽出し、観察調査を行い、形態や駅の規模によって分類する。

## 6. 参考文献

- [1] 川口市都市整備部:「紹介します川口駅周辺のまち、2014年
- [2] 埼玉県市街地調整課:「埼玉県の区画整理と再開発」2008年